

令和6年度地域における医療連携に関するアンケート調査

回答結果

1. 調査概要

【アンケート調査の趣旨】

地域の医療機関と積極的に連携を図り、地域に根差した医療機関として質の高い精神科専門医療の提供を目的とした医療連携室の開設から約2年が経過した。

今後更なる連携を図るほか、日々多様化する医療機関におけるニーズに対応できるよう、当センターの課題を把握し、医療サービスを向上させ、さらには今後の地域における医療連携の在り方等を検討する。

なお、令和5年度から開始したアンケート調査であるが、毎年の定期調査とし、継続的に地域の医療機関におけるニーズを把握していきたい。

【調査対象】

伊奈町・上尾市・桶川市・蓮田市・白岡市の夜間・休日診療所及び休止中を除く全医療機関

県内及び東京都北区の精神科・心療内科を標榜する医療機関のうち、認知症専門やホームページ上に精神科・心療内科の記載が無い施設を除いた機関

その他、当センターと医療連携があった医療機関

（注）令和6年度調査では東京都区内及び当センターと医療連携があった医療機関にも対象を拡大しています。

【調査期間】

令和6年10月～12月

【調査実績】

アンケート送付数：761件

アンケート回答数：281件（回答率：36.9%）

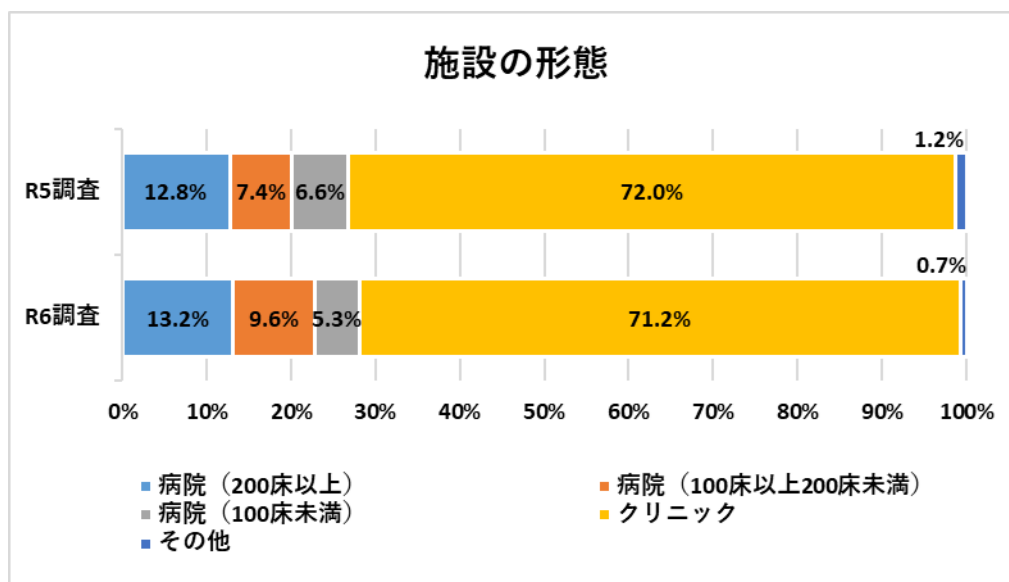
〔参考〕令和5年調査

（アンケート送付数：594件
アンケート回答数：243件（回答率：40.9%））

2. 調査結果

1. 御回答いただいた施設について

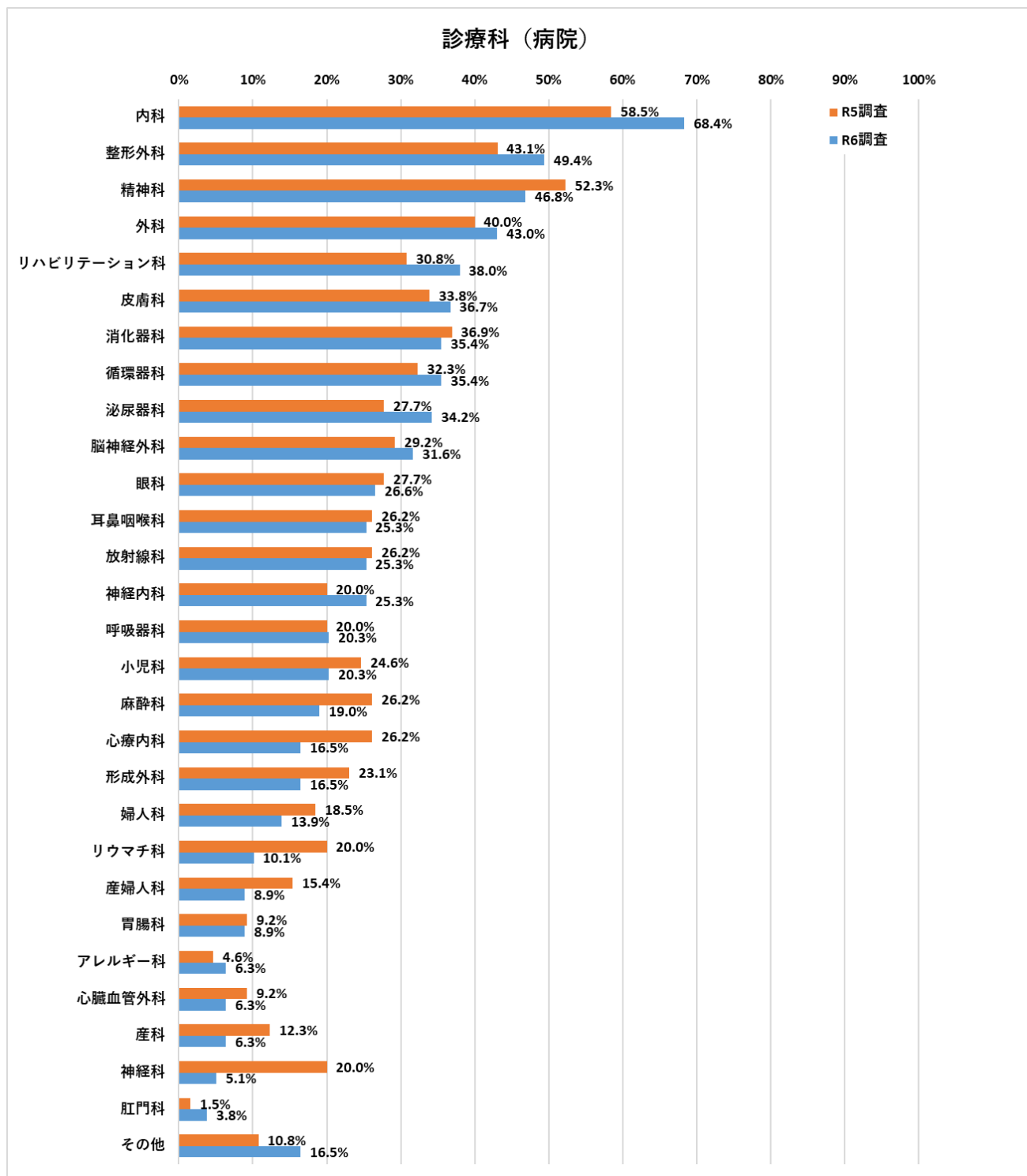
(1) 施設の形態

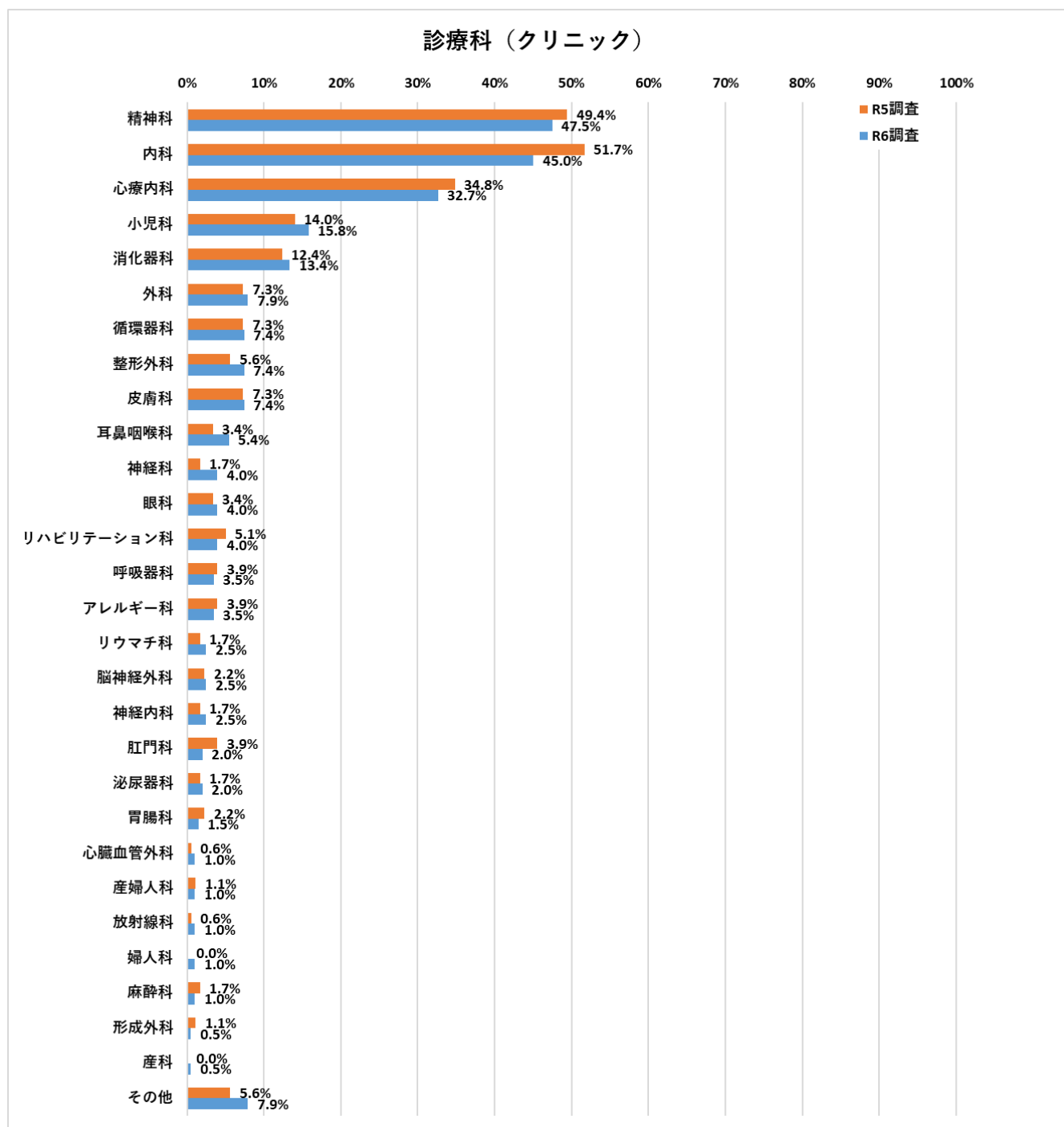


御回答いただいた 281 件の内訳は、病院（200 床以上）が 37 件（13.2%）、病院（100 床以上 200 床未満）が 27 件（9.6%）、病院（100 床未満）が 15 件（5.3%）、クリニックが 200 件（71.2%）、その他が 2 件であった。

次の設問以降については、回答のあった 281 件を病院 79 件とクリニック（その他施設 2 件含む）202 件に分けて報告する。

(2) 診療科＜複数選択可＞

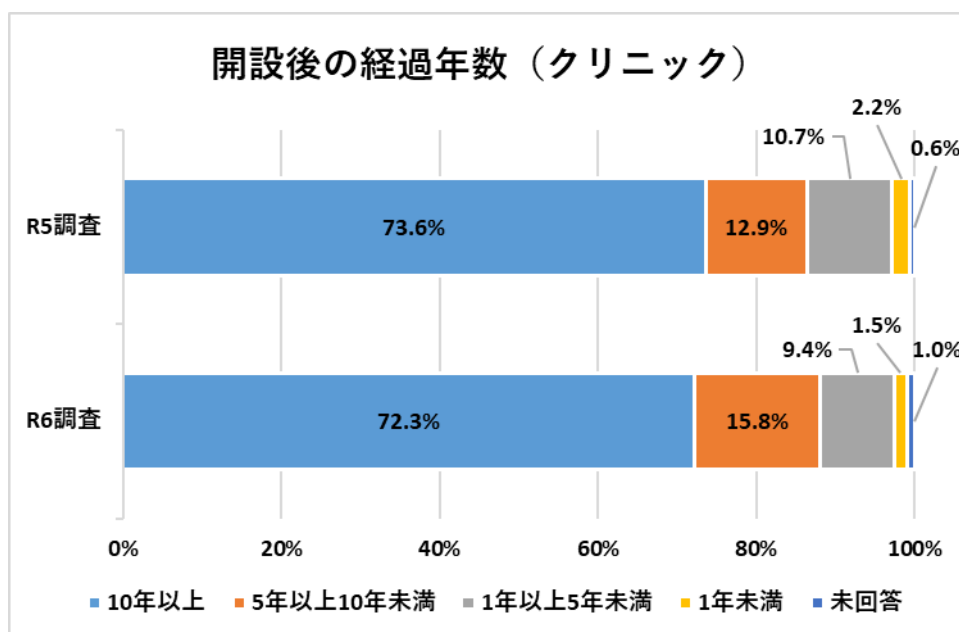
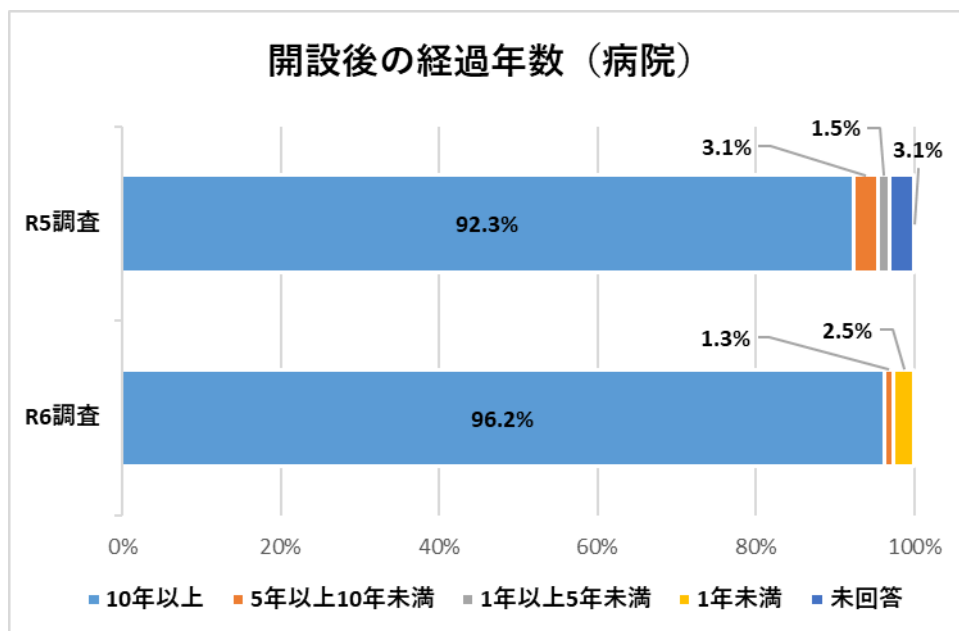




当センターは精神科単科病院であることもあり、精神科とのやりとりが多い。病院、クリニックともに約半分の施設が精神科診療を行っていると回答した。

精神科の他では、当センターがアルコール依存症専門治療や児童・思春期の患者の治療を行っていることから、内科や小児科を診療している施設からの回答を多くいただいた。特に、病院に関しては、内科の割合が昨年度と比べて10ポイント程度増加した。

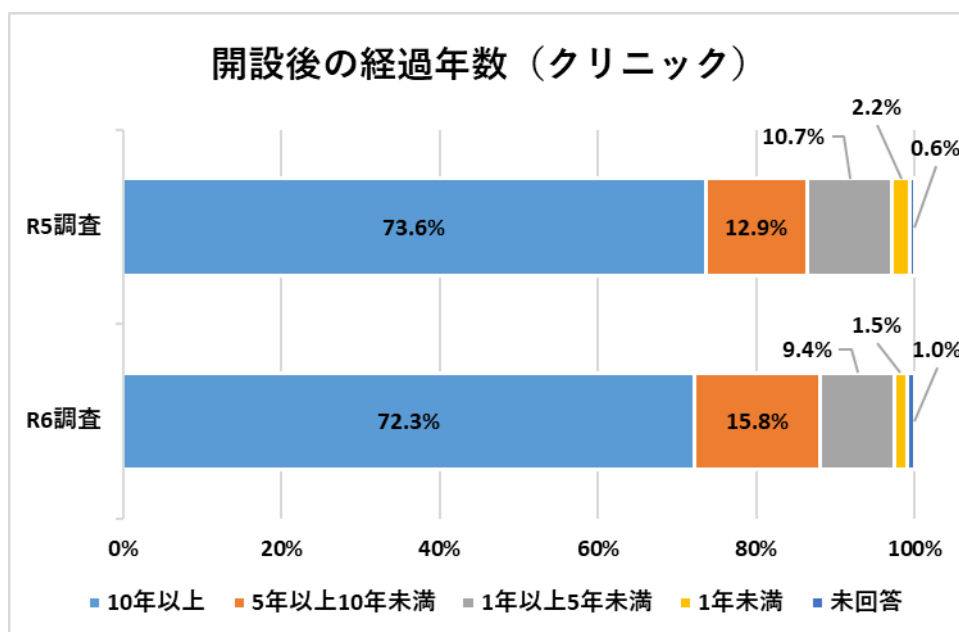
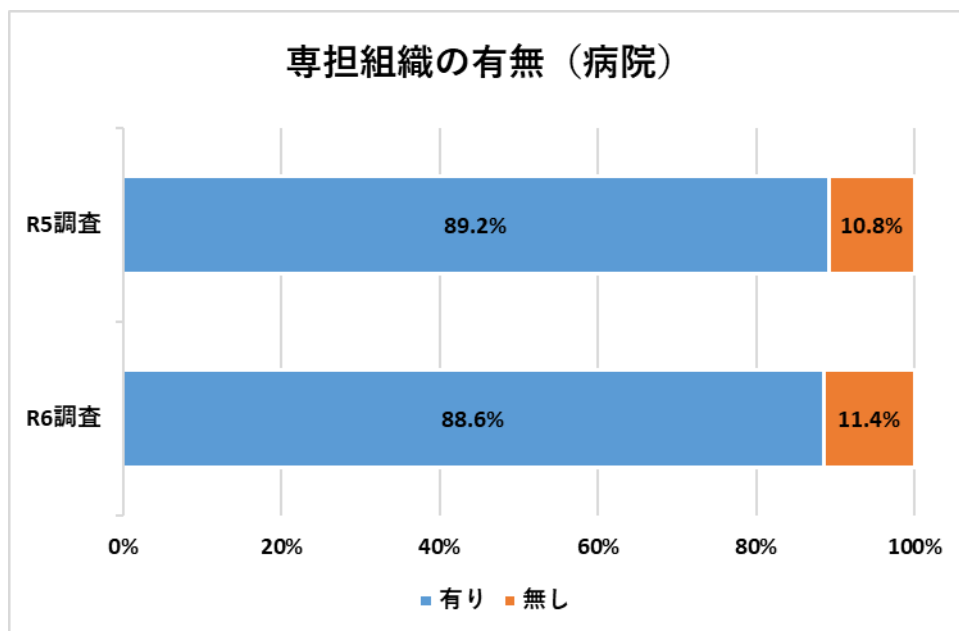
(3) 開設後の経過年数



病院、クリニックともに開設から10年以上が経過している施設が多数であった。10年未満の施設は病院が1割に満たないのに対し、クリニックは回答の4分の1程度であった。

開設から1年未満の施設は、病院で2件、クリニックで3件回答があった。

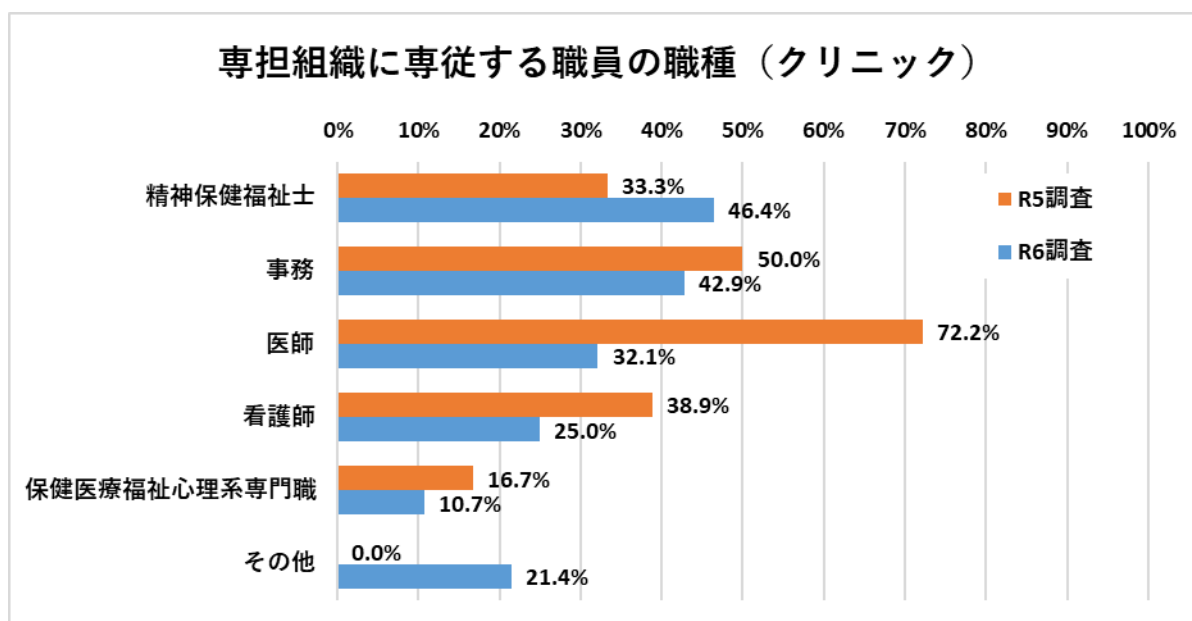
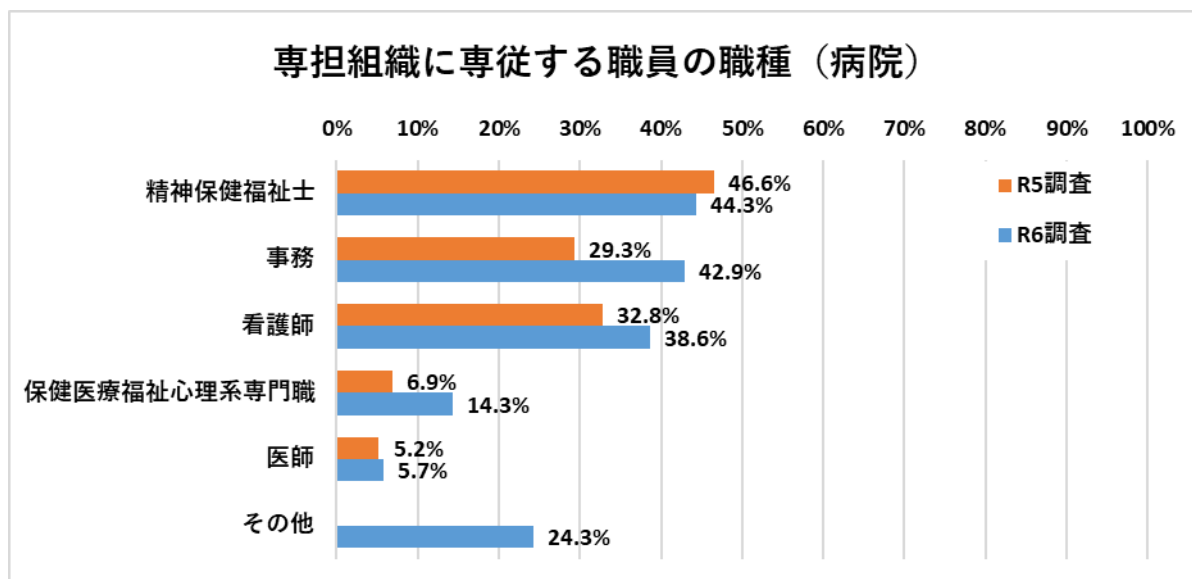
(4) 他の医療機関との連携を図るための専担組織（例：医療連携室）の有無



他の医療機関との連携を図るための専担組織について有りと回答したのは、病院では約9割、クリニックでは約1割とおおまかな比率は昨年度と同様であった。

ただ、クリニックにおいては有りと回答した割合が、昨年度の10.1%から2.8ポイント増加しており、件数についても昨年度が18件に対し、今年度は28件と大きく増加した。他の医療機関との連携を図るための専担組織を置くクリニックが増加傾向にあることが推察される。

(5) 専担組織に専従する職員の職種＜複数選択可＞



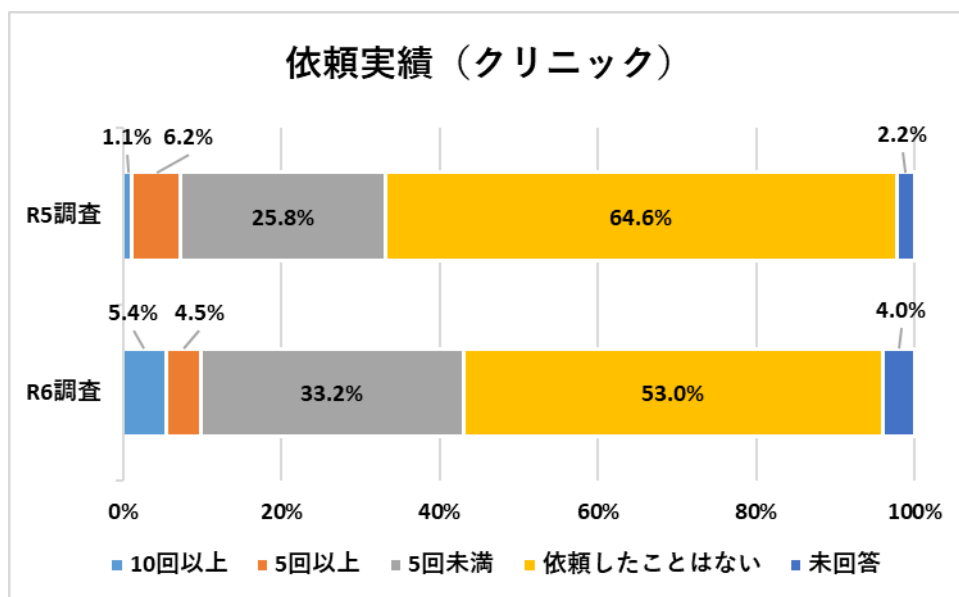
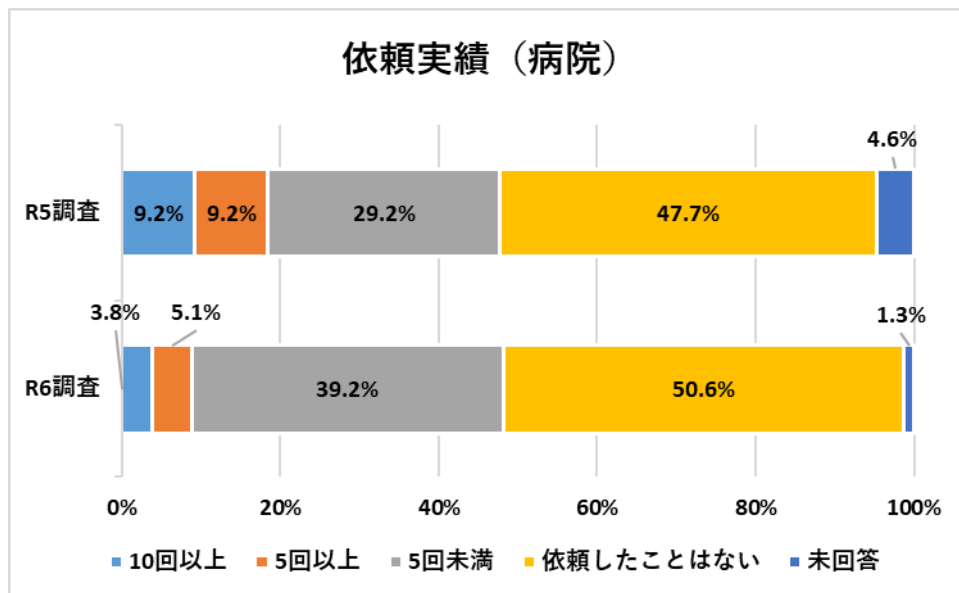
昨年度に引き続き、病院、クリニックともに精神保健福祉士が最多であった。

昨年度、クリニックにおいて精神保健福祉士に次いで多い職種は医師であったが、今年度は事務であった。他の医療機関との連携を図るための専担組織を置くクリニックの増加に伴い、専従の事務職員も増加している傾向がみられた。

「その他」の回答では、社会福祉士と公認心理士を回答される施設が多かった。

2. 当センターの医療連携室について

(1) 依頼実績

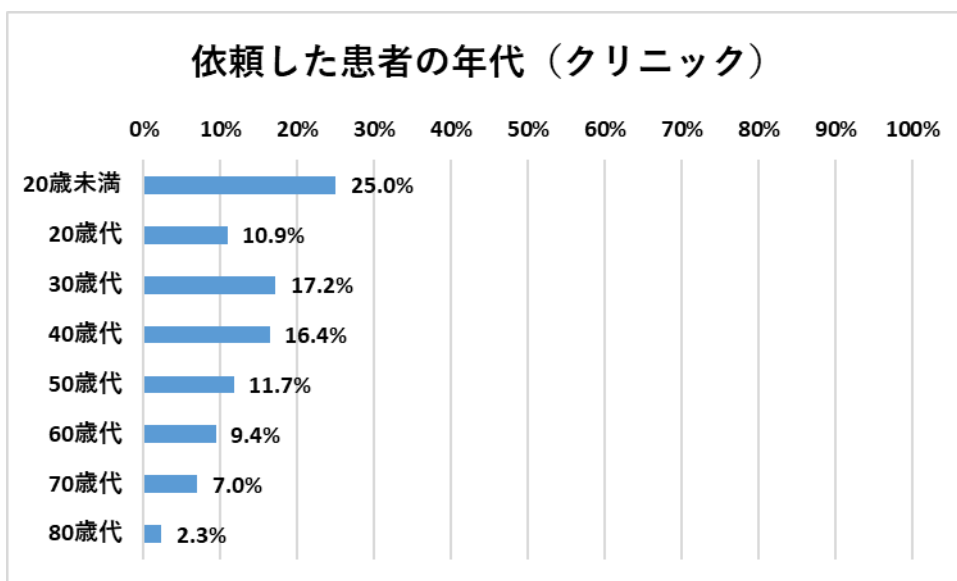
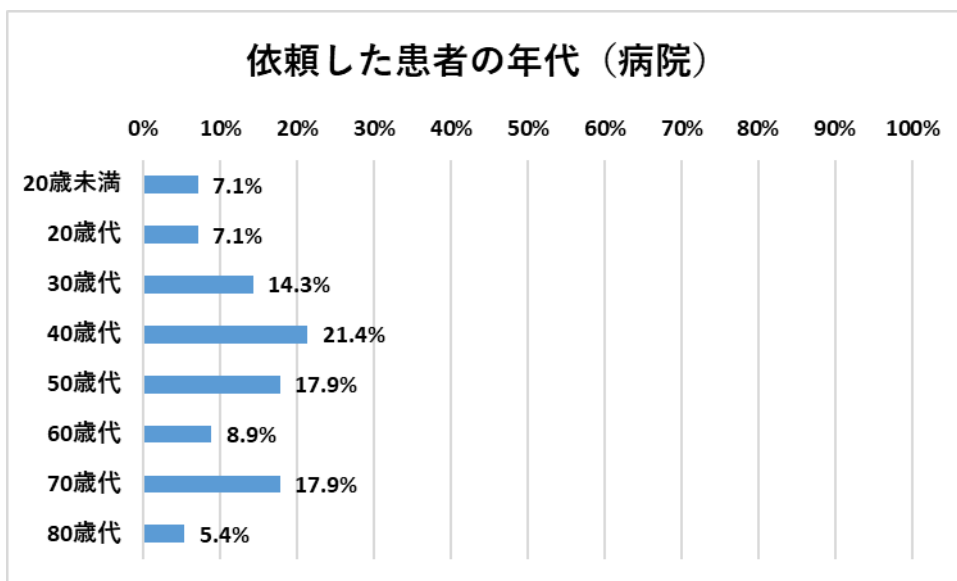


病院、クリニックともに「依頼したことがない」という回答が約半数であった。

依頼したことがあると回答したクリニックは、昨年度の 33.1%に対し今年度は 43.1%と 10 ポイント増加した。件数でも昨年度の 59 件から今年度は 87 件と大きく増加した。

依頼したことがあると回答した病院は、昨年度の 47.7%に対し今年度は 43.1%と減少している。この要因として、昨年度よりも調査対象医療機関を増やした影響で割合が減少したことなどが考えられるが、件数としては、昨年度の 31 件から今年度 38 件に増加した。

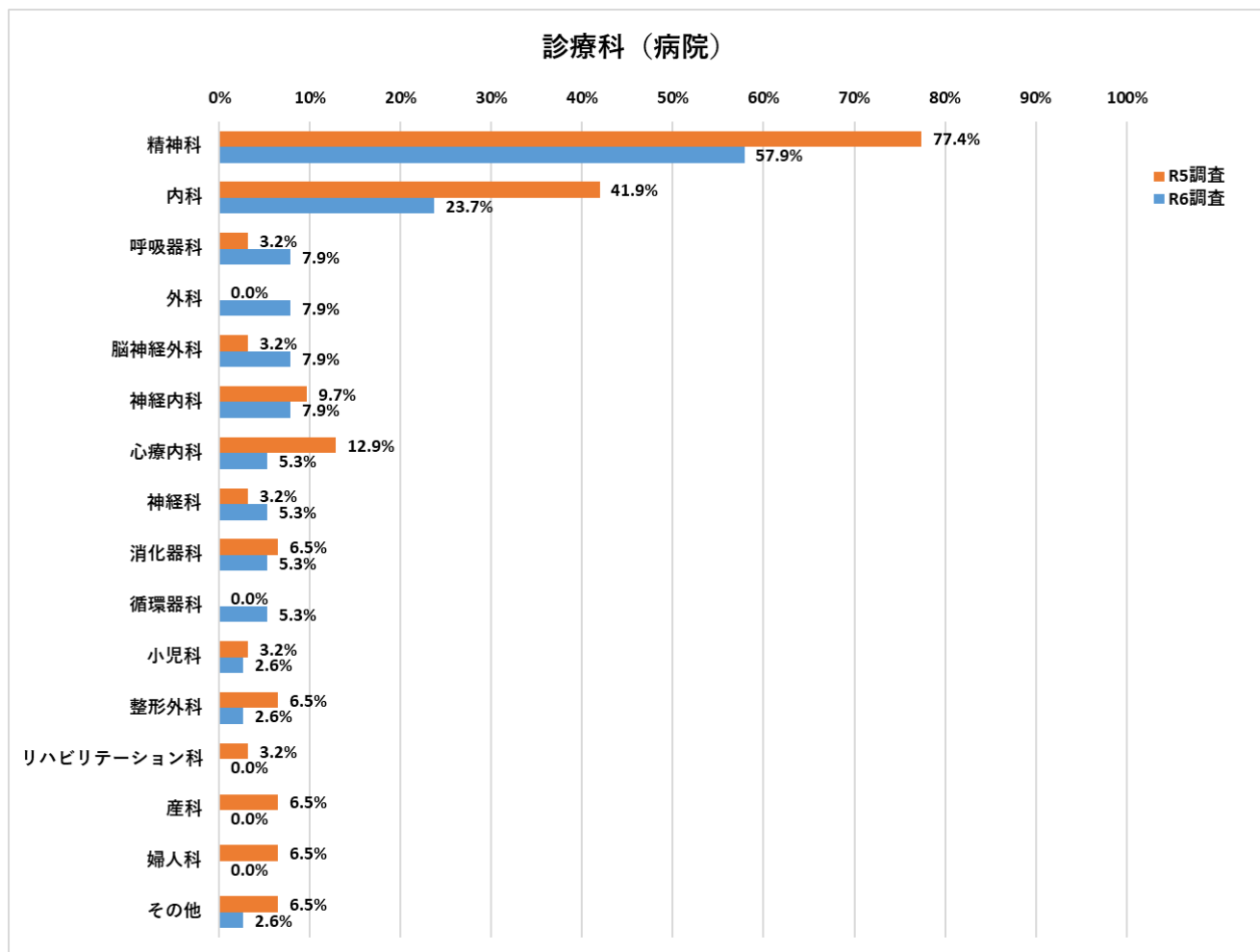
（２）依頼した患者の年代

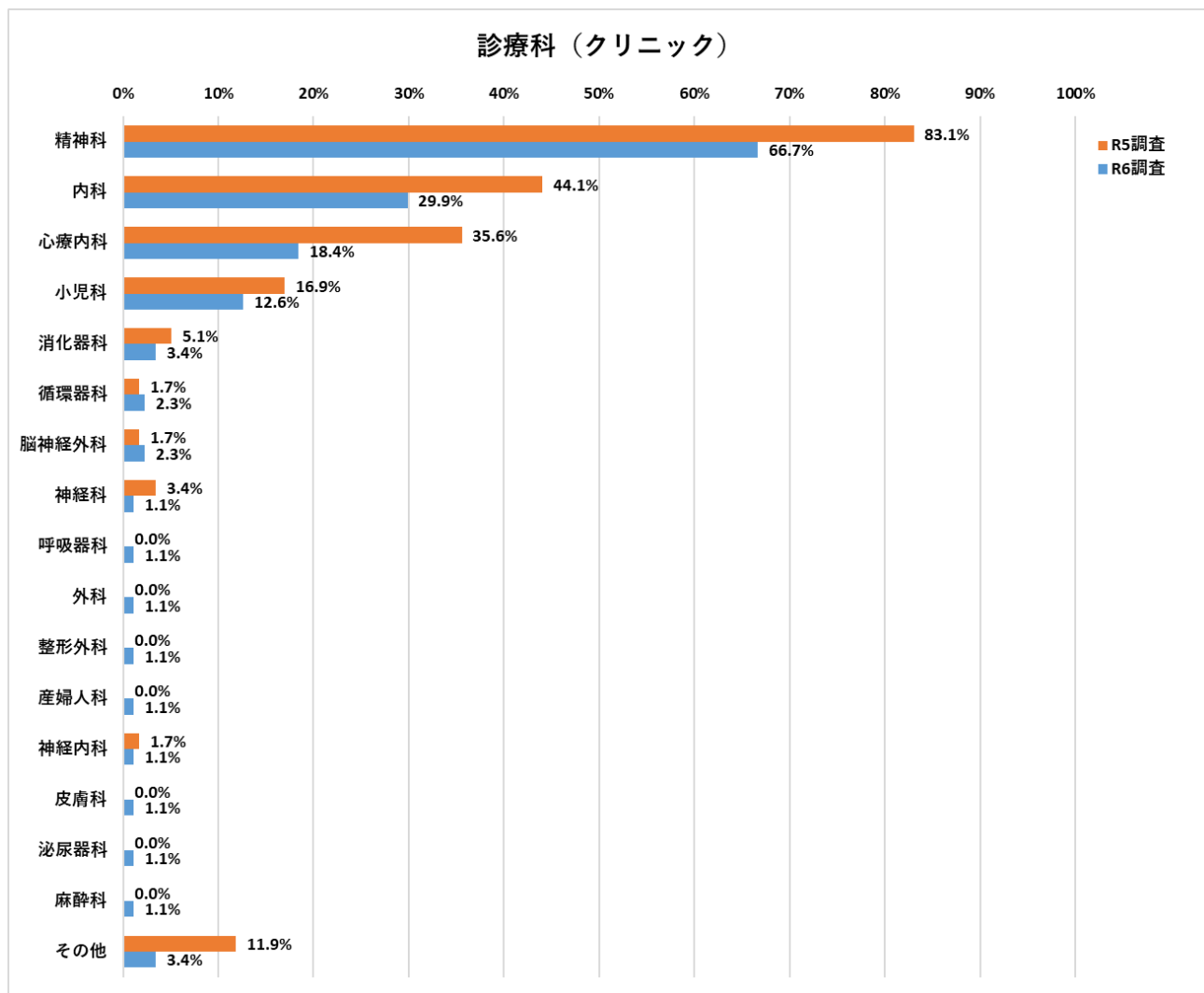


大きな偏りは見られなかったが、比較的にクリニックのほうが若年の患者を依頼しており、病院のほうが年齢の高い患者を依頼している傾向にある。

クリニックでは、20歳未満の患者の依頼が25.0%で最多となっているが、小児科のクリニックからの回答が多いことが影響していると考えられる。

(3) 依頼元の診療科＜複数選択可＞

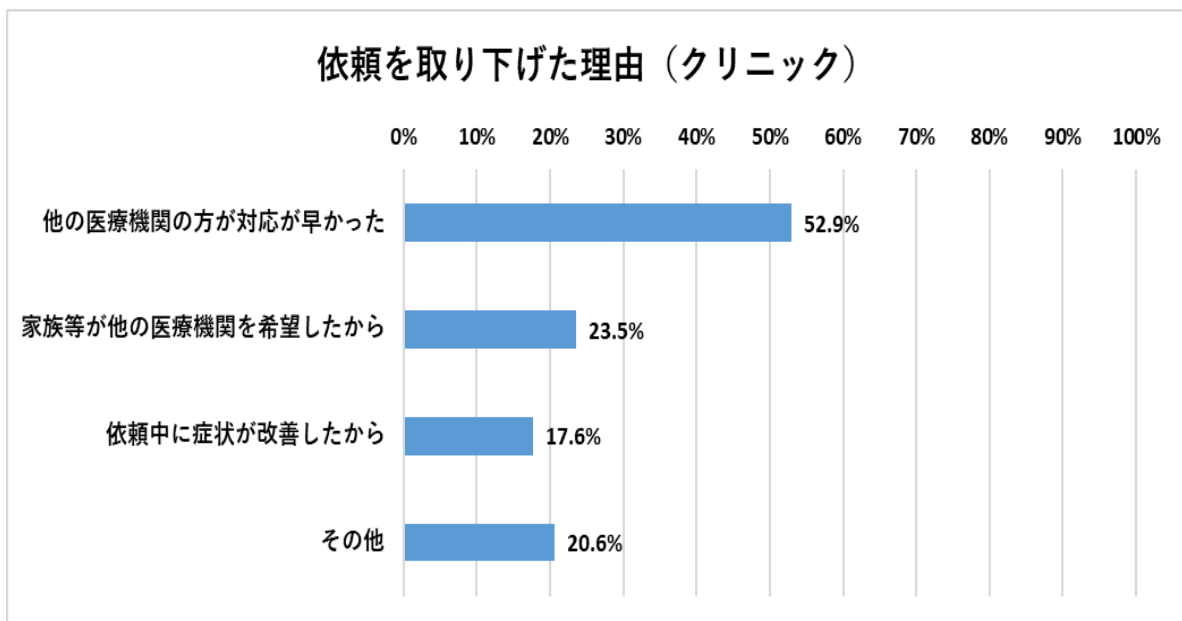
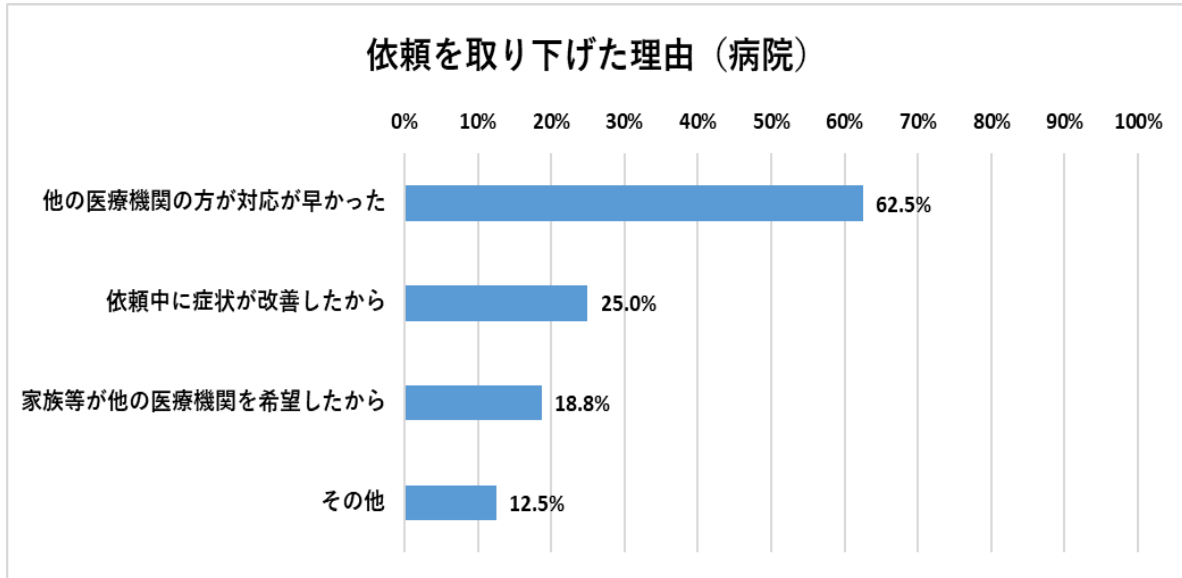




ともに精神科、内科の順で多く、病院とクリニックで大きな差異はなかったが、クリニックでは小児科からの依頼が多く見られた。この傾向は昨年度からも特に変化はなかった。

ただ、高い割合を占めた精神科、内科、心療内科も昨年度に比べるとそれぞれ 10 ポイント以上の減少が見られる。これは医療連携室の開設以降、徐々に精神科や心療内科だけでなく幅広い診療科の医療機関から依頼を受け始めている中、今年度のアンケート送付先には依頼実績のある医療機関を追加したことが影響していると考えられる。

(4) 依頼を取り下げた理由

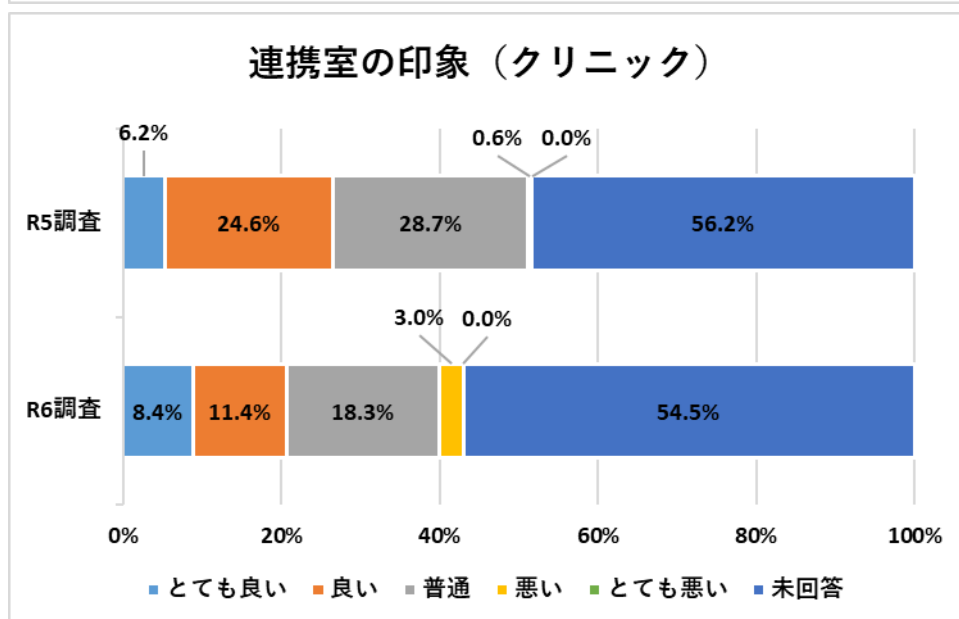
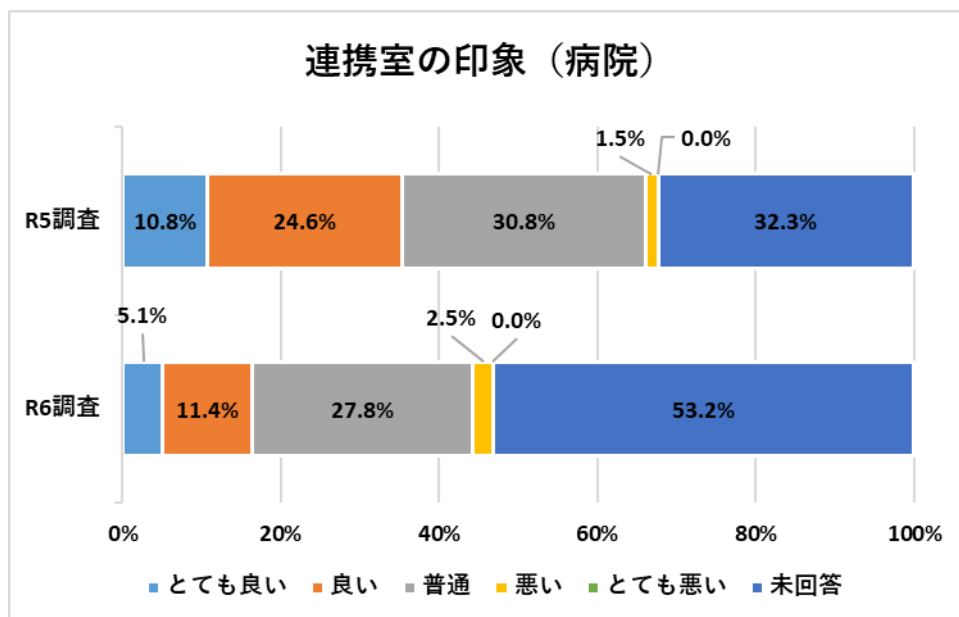


病院、クリニックともに並行して依頼していた他の病院のほうが対応が早かったという回答が最も多く、大半がその理由で取下げとなっている。

家族が他の病院を希望したケース、依頼中に症状が改善したケースも一定数の回答があった。

「その他」の回答では、依頼中に救急搬送されたというケースがあった。

（５）医療連携室の印象



昨年度同様に、依頼実績がない施設も多いことから病院、クリニックともに未回答が多数あった。

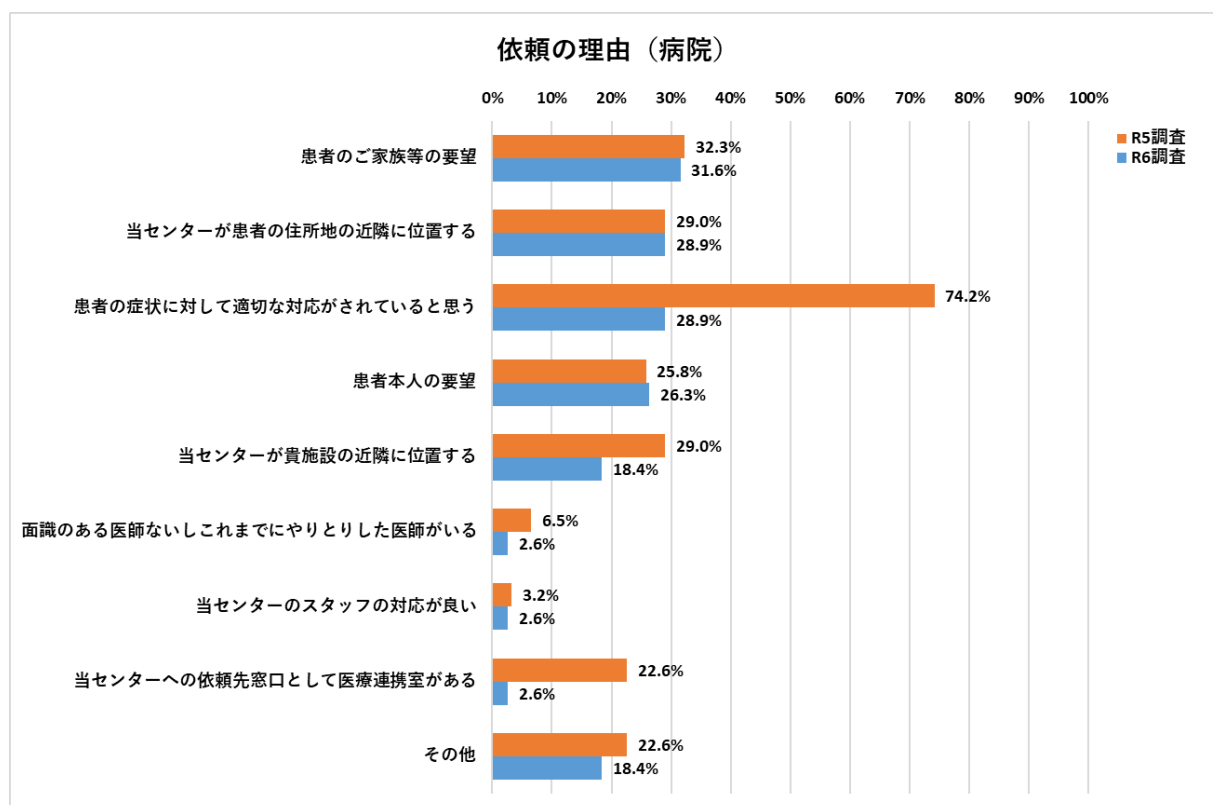
「とても良い」または「良い」と回答した病院は昨年度が 35.1%であったのに対し、今年度は 16.5%と残念ながら大きく数字を下げた。

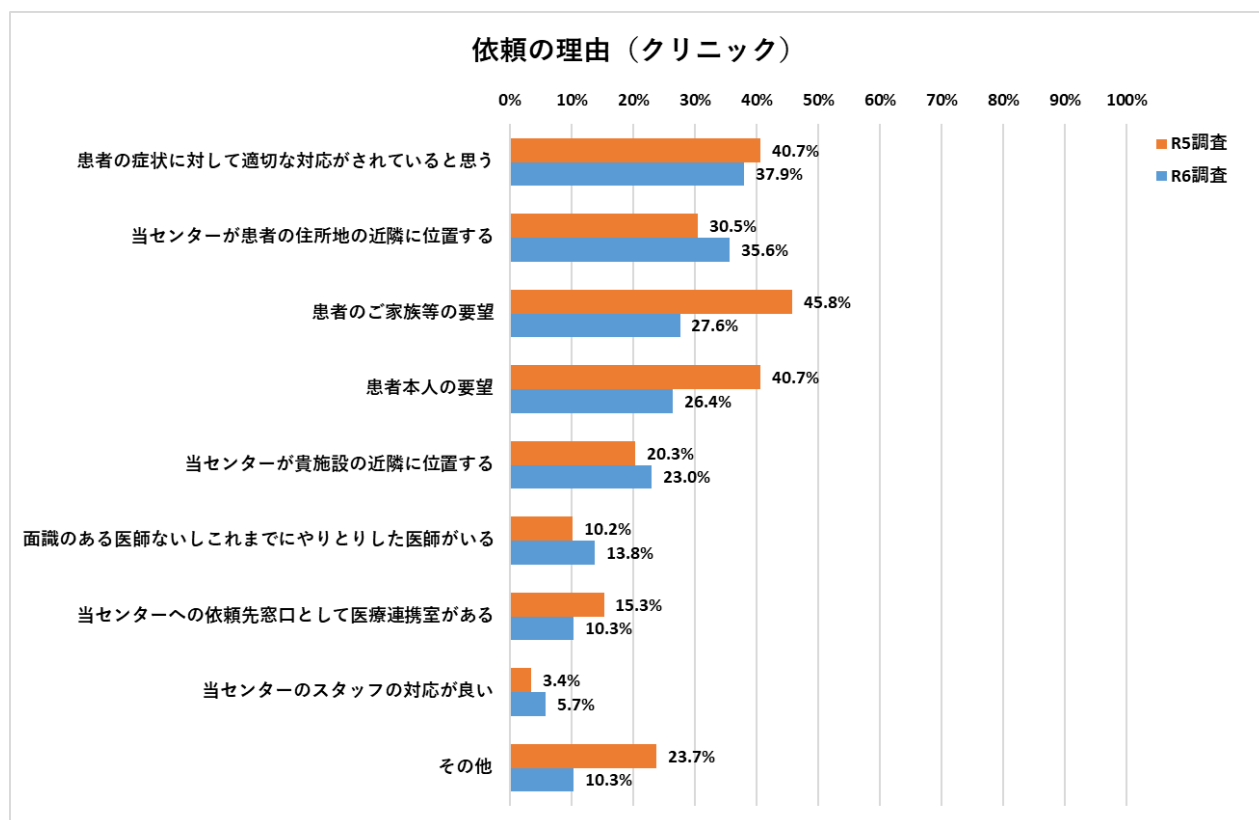
一方で、「とても良い」または「良い」と回答したクリニックは昨年度が 14.6%であったのに対し、今年度は 27.2%とまずまずの改善が見られた。

病院、クリニックともに「とても悪い」と回答した施設はなかったものの、「悪い」という回答は病院で 2 件、クリニックで 6 件あった。

「悪い」と回答された理由は、「依頼が断られた」「依頼してから受け入れまでの時間がかかった」という意見がそれぞれ4件で最も多く、その他に「依頼しにくいと感じられる」「医療連携室の機能や役割等が十分に伝わっていない」「患者に関する情報のやりとりが円滑にできなかった」という意見があった。

(6) 依頼しようとした理由＜複数選択可＞





病院、クリニックともに患者やご家族等の要望、当センターから患者の住所地が近隣であったといった、患者やご家族の都合に配慮した理由が多く見られた。

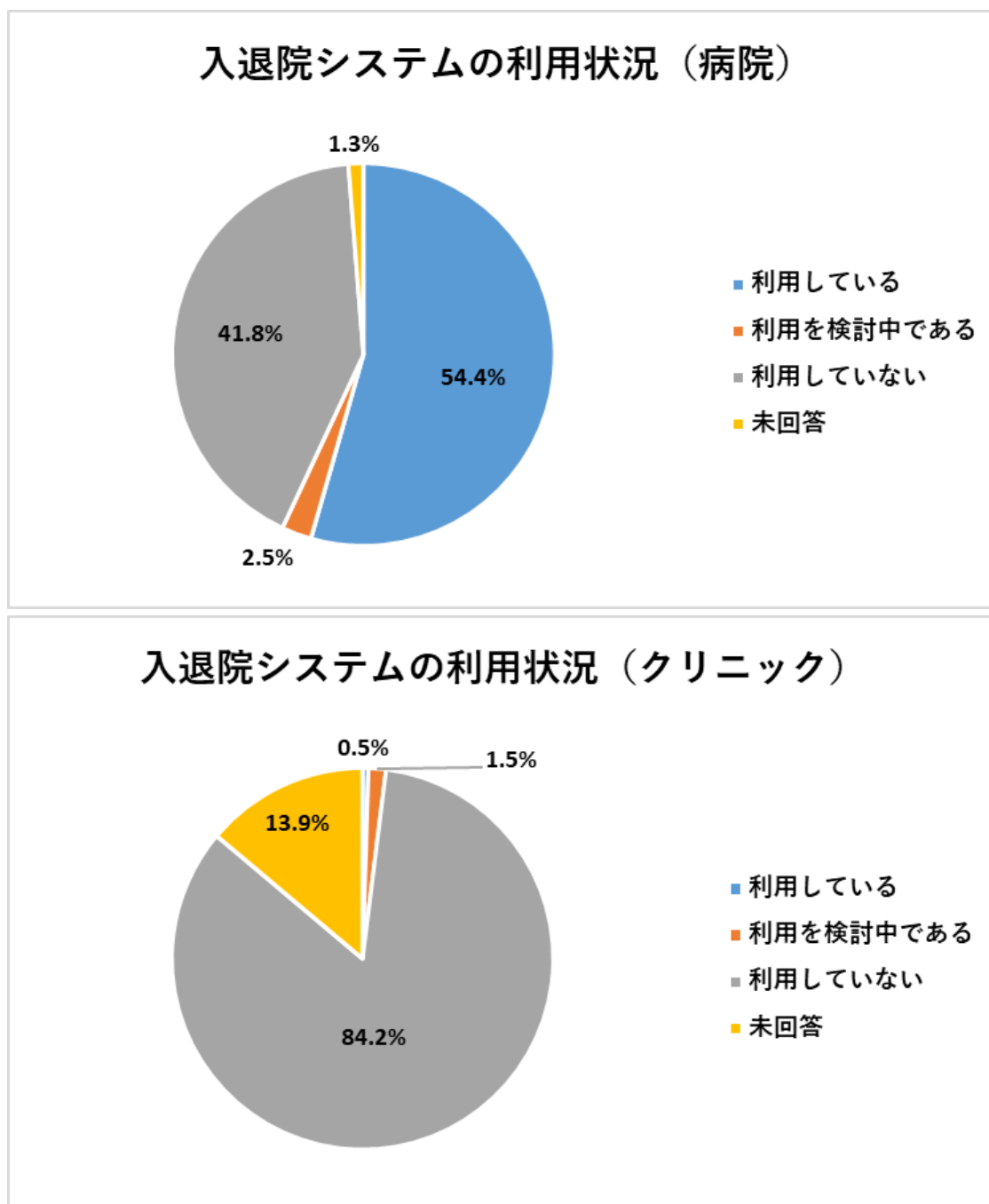
また、「患者の症状に対して適切な対応がされていると思う」という理由も多く見られたものの、病院においては昨年度が74.2%であったのに対し、今年度は28.9%と大きく減少した。

クリニックにおいては、「面識がある医師ないしこれまでにやりとりした医師がいる」ことが理由と回答されたケースが病院に比べ多く見られた。

「その他」の回答では、当センターが依存症や児童・思春期の治療を行っていることが挙げられた。

3. 医療連携ツールについて

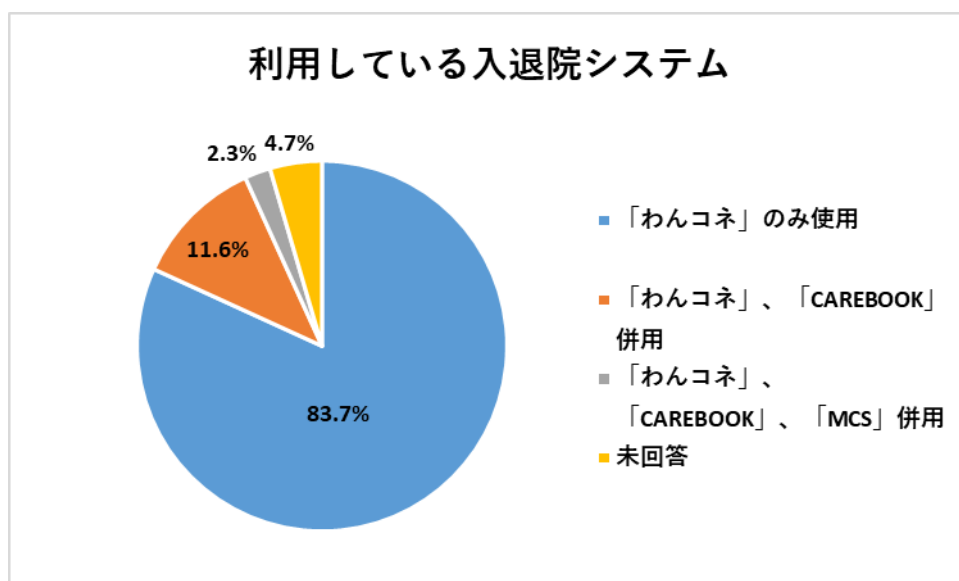
(1) 入退院システムの利用状況



「利用している」と回答したのが、病院では54.4%であったのに対し、クリニックでは0.5%（1件）と大きな差が見られた。

当センターでも令和6年10月より無料の入退院システム「わんコネ」の利用を開始しているが、約半数の利用している病院では、入退院システムを利用した依頼も増加する可能性があるかと推察される。

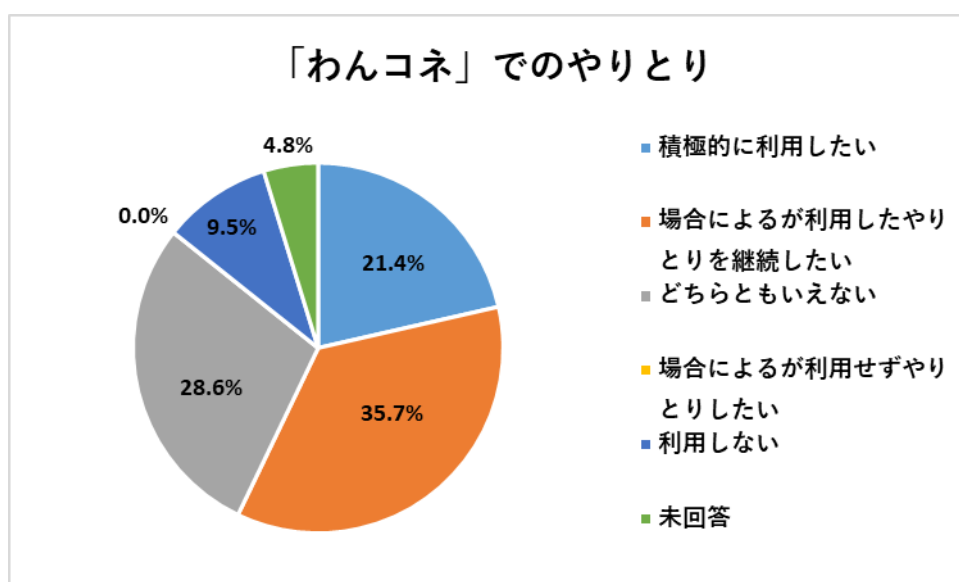
(2) 利用している入退院システム



入退院システムを利用していると回答があった全ての施設が「わんコネ」を使用しているという回答であった。

「わんコネ」の他、一部「CAREBOOK」「MCS」を併用している病院があった。

(3) 「わんコネ」を利用した当センターとのやりとり



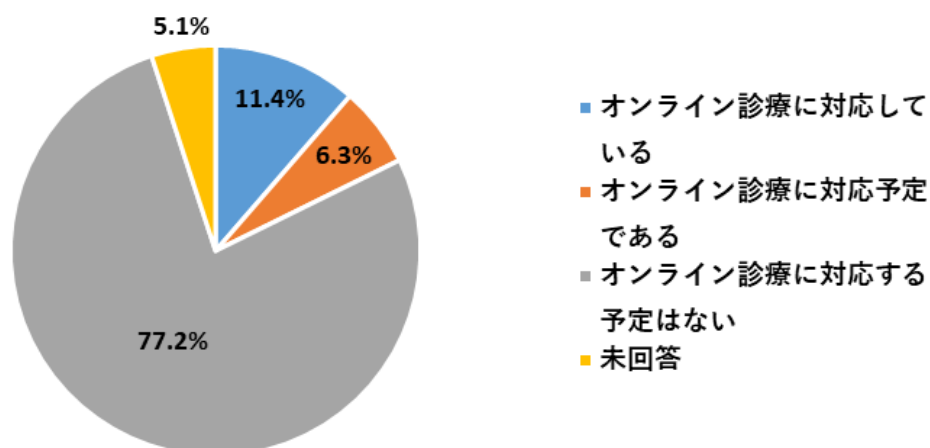
「積極的に利用したい」、「場合によるが利用したやりとりを継続したい」という回答が57.1%であり、半数を超える利用の希望があった。

一方で回答した施設も「わんコネ」を導入したばかりで判断ができない、従来の電話でのやりとりのほうが伝わりやすく適切な場合もあるという意見もあった。

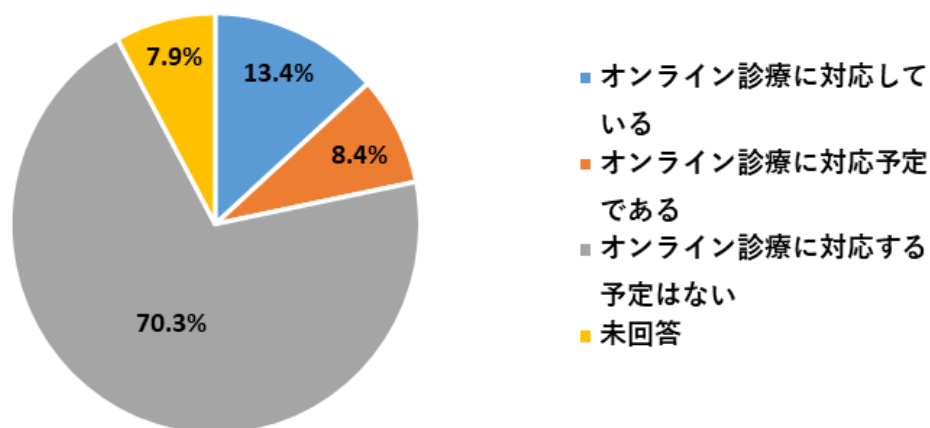
4. オンライン診療について

(1) オンライン診療の対応状況

オンライン診療の対応状況（病院）



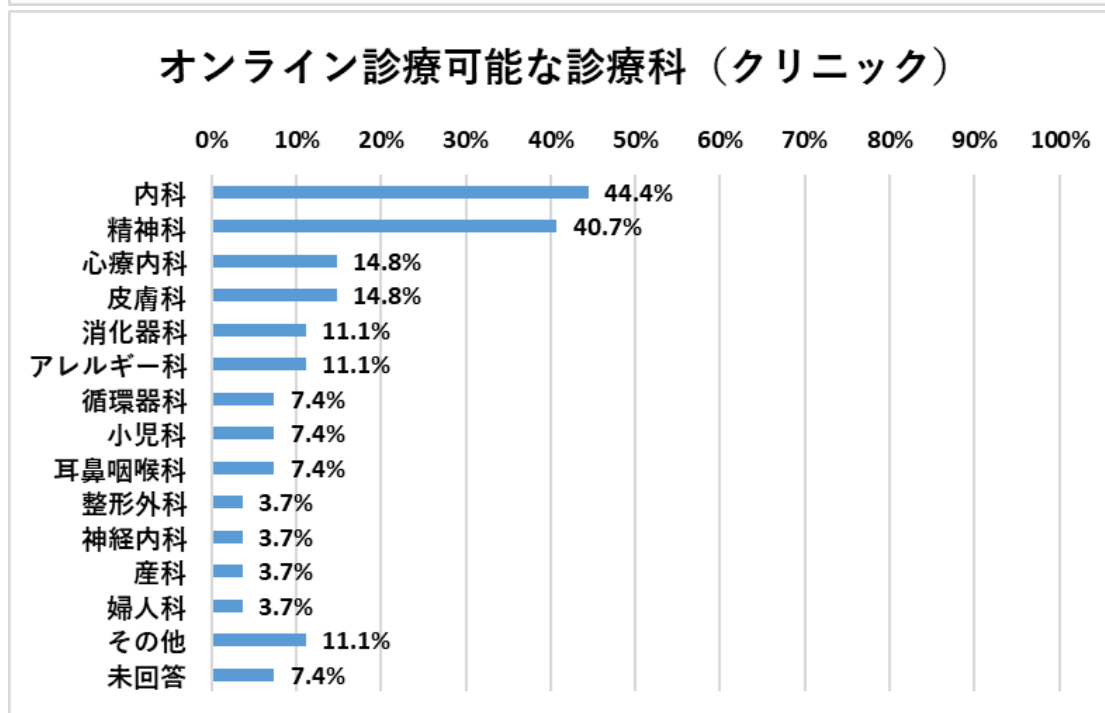
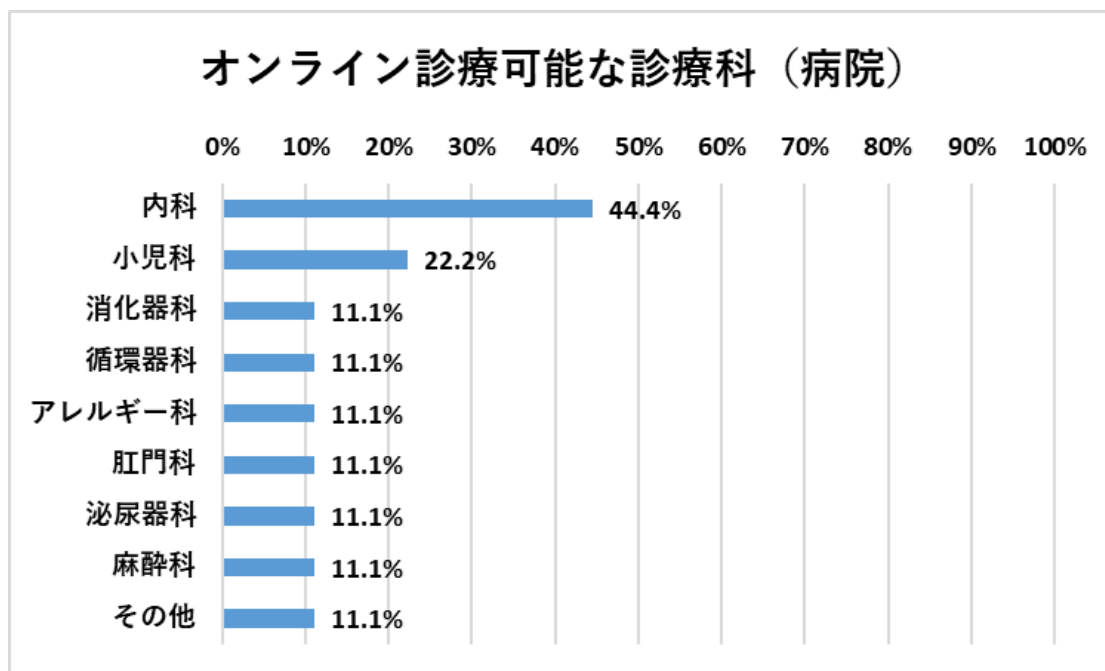
オンライン診療の対応状況（クリニック）



オンライン診療に対応している施設は、病院で 11.4%、クリニックで 13.4%とどちらも少なく、病院、クリニックともに「オンライン診療に対応する予定はない」という回答が 7 割以上を占めた。

令和 5 年 6 月には厚生労働省から「オンライン診療その他の遠隔医療の推進に向けた基本方針」が定められたこともあり、少しずつではあるがオンライン診療が浸透していくものと推察される。

(2) オンライン診療に対応している診療科



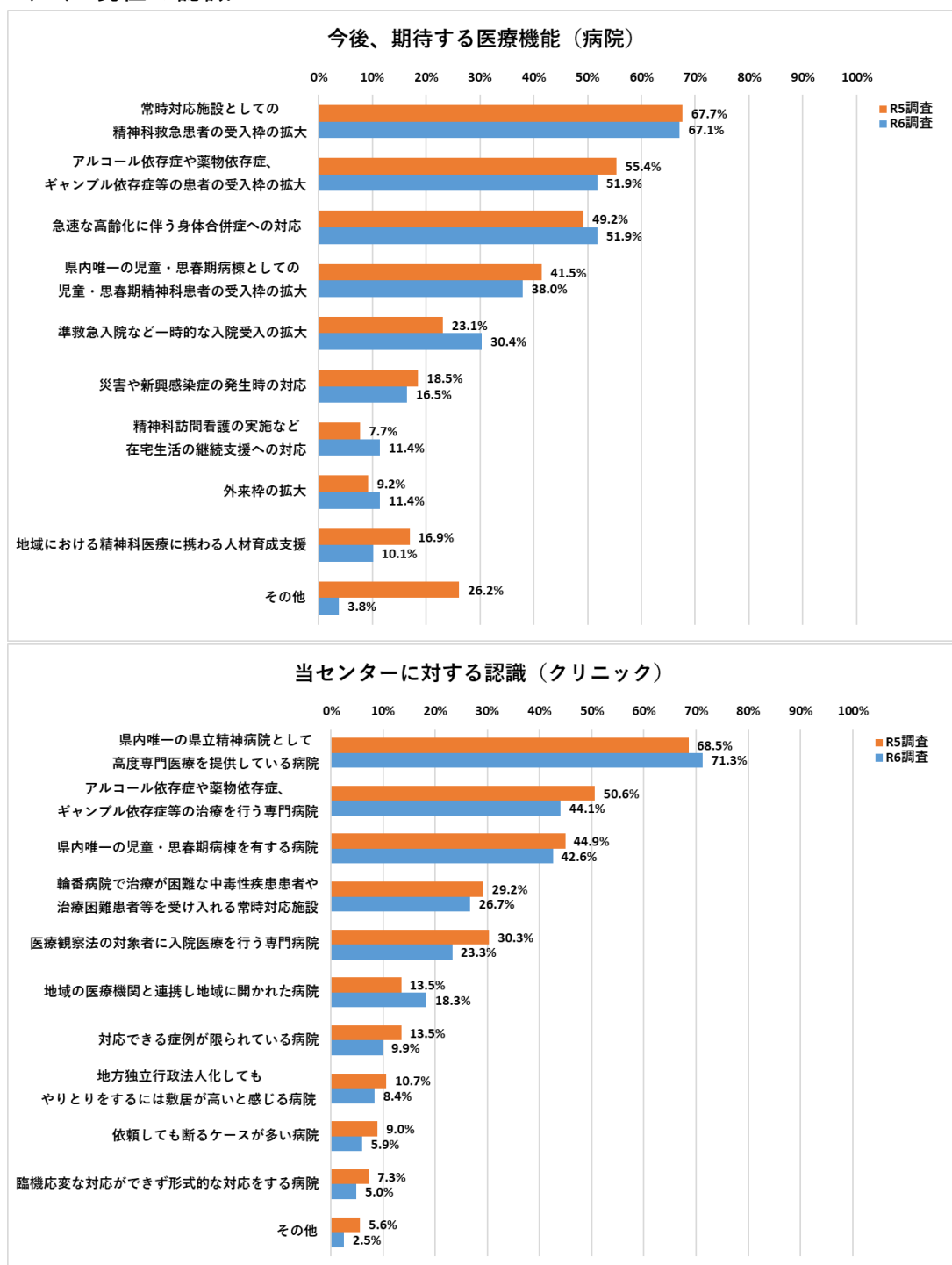
病院、クリニックともに内科がオンライン診療に対応している施設が多い。

内科の他には、小児科、消化器科、アレルギー科で対応しているケースが一定数見られた。

精神科のオンライン診療については、クリニックで11件（40.7%）対応していると回答があったが、病院では対応しているという回答はなかった。

5. 当センターに対する認識について

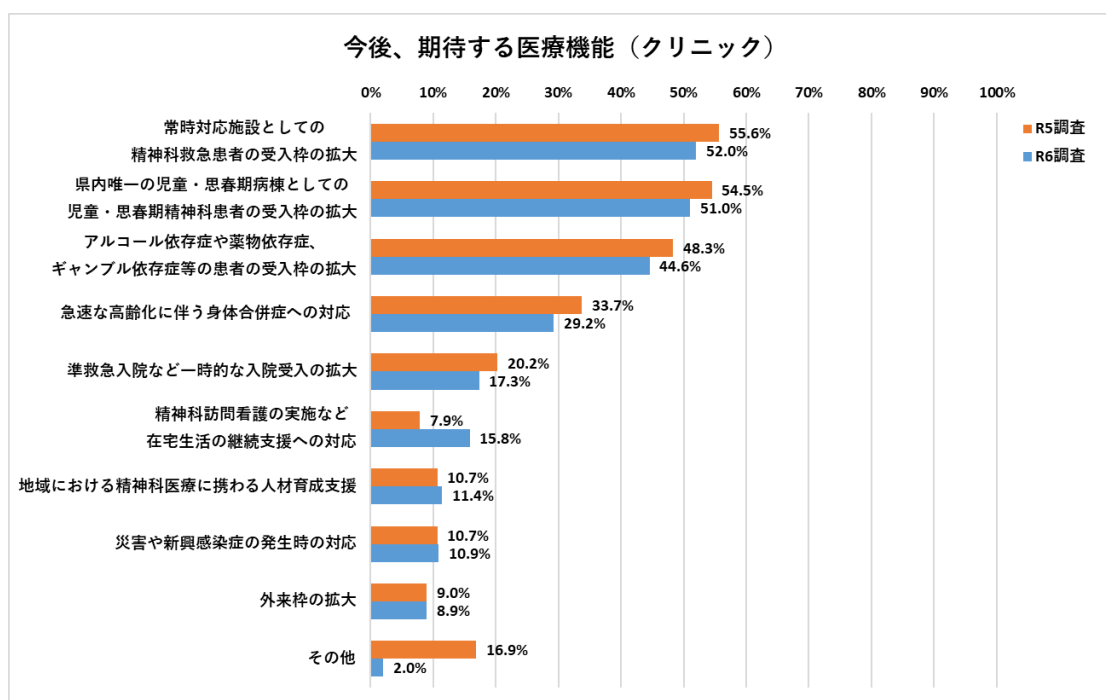
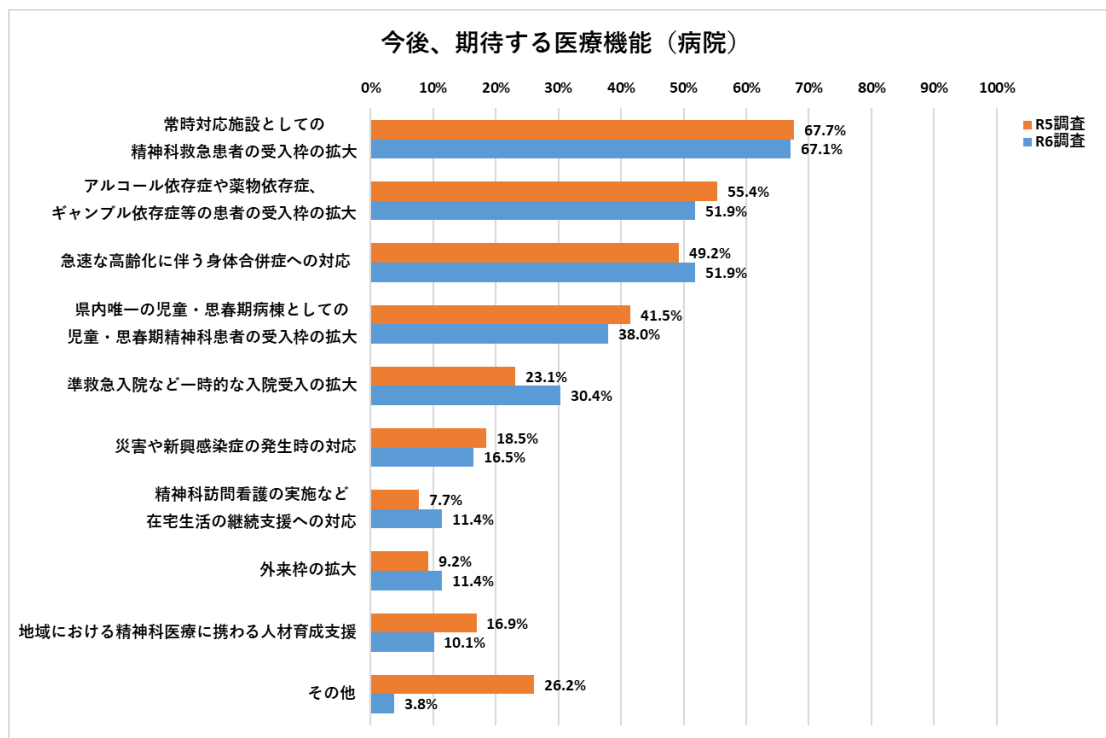
(1) 現在の認識



昨年度同様に、病院、クリニックともに県内唯一の県立精神病院であること、依存症の専門治療を行っていることが強く認識されていることが伺える。

また、県内唯一の児童・思春期病棟を有することや医療観察法の対象者に入院医療を行うことも、一定数の認識をされているようであった。

(2) 今後期待する医療機能



昨年度同様に、病院、クリニックともに精神科救急患者や依存症患者の受入枠拡大のニーズが多く、クリニックでは児童・思春期のニーズも高いことが伺える。

その他の項目についても、昨年度とほぼ同様の割合であった。